

外用剤メーカーのジャパンメディック（富山市横越、前田康博社長）は、台湾でOTC（薬局・薬店向け）医薬品の消炎鎮痛剤を発売した。自社初の海外進出となる。初年度は4万個の販売を目指す。

消炎鎮痛剤の製品名は「脱酸

ジャパンメディック

寧」。肩凝りや筋肉痛、腰痛の改善が期待される。メントールを配合し、清涼感を高めた。現地では日本ブランドの認知度が高いとされ、パッケージは日本製であることや平仮名など日本語表記を織り交せてアピールしている。

台湾で消炎鎮痛剤発売

初年度4万個販売目標

台湾で発売した消炎鎮痛剤のパッケージ



同社は、人口減少などで国内市場の拡大が見込めないことから2015年に製品輸出の準備を始めた。台北市の商社「大法貿易」と提携。今年台湾政府から製造販売承認を取得した。現地のドラッグストアや薬局で取り扱っている。

ジャパンメディックは今後、台湾に保湿剤を輸出するなど海外事業を強化する方針。同事業の売上高は5年後に1億円を目標とする。